

特定臨床指標2 【検査部】

緊急検体検査結果報告時間 目標達成率

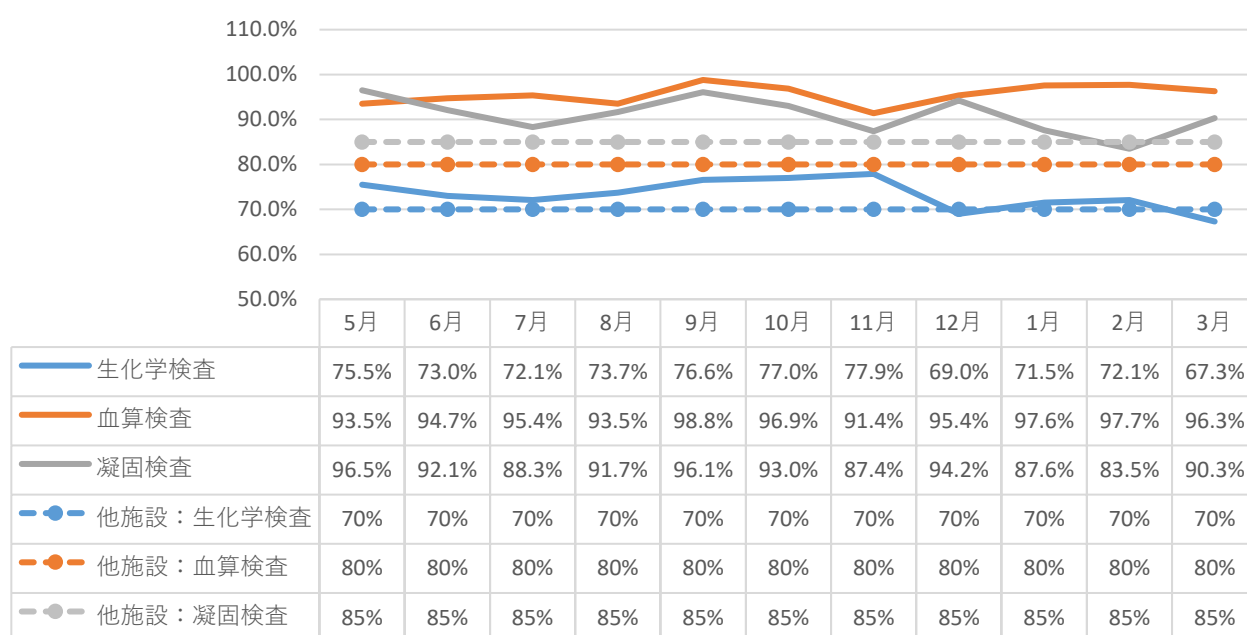


血液などの検体検査の結果が報告されるまでの時間を短縮することは、患者さんの診断や治療に直結する重要な診療支援の一つとなっております。特に、救急外来や入院患者さんの急変に対しては、迅速に検査を実施して結果を報告する必要があります。このような検査は緊急検査とよばれ、当検査部では夜間・休日問わず24時間体制で検査を実施しています。検査結果報告時間の短縮に向けて各検査に目標値を設定して、検査結果の報告に遅れが無いが全ての検査の報告時間をモニタリングしています。

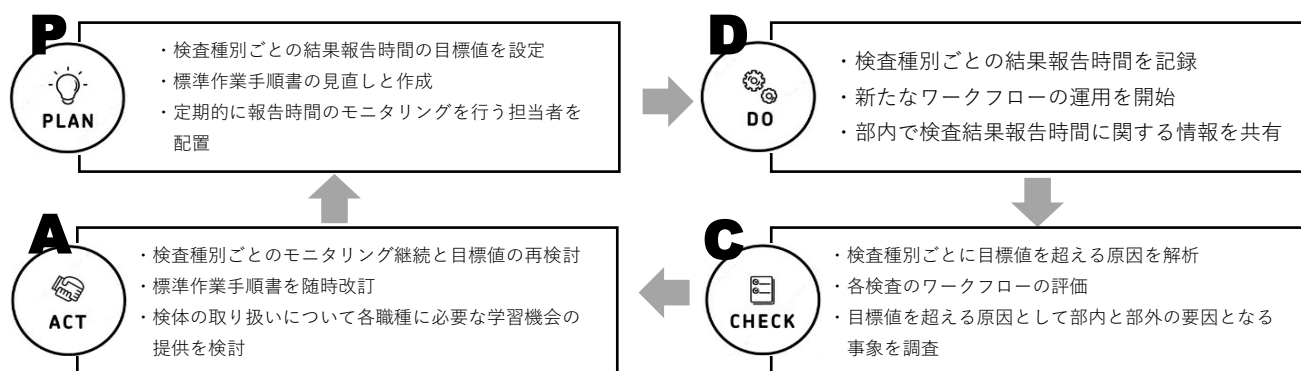
夜間・休日における緊急検査報告時間の達成率

定義

分子：採血管受付から結果報告までの時間が目標値を達成した検体数
分母：緊急検査として提出された各検査の検体数



※目標値：生化学検査（30分以内）血算検査（15分以内）凝固検査（30分以内）



■2024年度 実施内容と評価

実施内容

- ・検査種別（生化学、血算、凝固検査）ごとに目標値を超える原因の調査を行った。
- ・採取した検体の品質確保のために、院内WEBに掲載している「検査案内」（検体検査と生体検査全般に関わる情報が記載）の紹介を定期的に実施した。

評価

血算、凝固検査の目標達成率は昨年度と同等でベンチマークと比較しても問題はなかったが、生化学検査の目標達成率は昨年度より-3.6%減少していた（69.6%）。

理由として、患者由来の要因（透析患者やワーファリン服用患者など検査前の検体処理に時間を要する）が考えられる。もう一つの要因として、検体の取り直しによる検査結果の遅れが挙げられる。

防止策の一つとして、採血管の種類や特徴、正しい採取方法や搬送方法などを周知する目的とした学習の機会（E-ラーニング）を設けた。受講率は看護師が約79%、臨床検査技師が約87%であった。職員の入れ替わりにも対応できるように、継続予定。